

## 地域未来創造会議（水俣・芦北地域）議事概要

- 1 日時 令和8年3月23日（月） 15：30～17：10
- 2 場所 津奈木町役場 3階大会議室
- 3 出席者
  - (1) 市町村長  
高岡水俣市長、竹崎芦北町長、山田津奈木町長
  - (2) 県議会議員（オブザーバー）  
吉永議員、荒川議員
  - (3) 県  
[本庁]  
木村知事、柴田総括審議員、藤由市町村課長 他  
[地域振興局]  
森山地域振興局長、服部地域振興局次長、上田平総務振興課長 他
- 4 議事内容  
テーマ：「第一次産業の活性化×観光（地域）振興」
  - (1) テーマ設定の経緯・背景について振興局から説明
  - (2) 現在の取組・今後の展望等について（各市町長より）
  - (3) 意見交換

### 結果概要

会議では、「第一次産業の活性化×観光（地域）振興」をテーマに、第一次産業と観光（地域）の現状、取組事例、今後の方向性・新たな連携の可能性（アイデア）、中山間地における農業の課題等について話し合われた。主な意見は次のとおり。

#### 1 「第一次産業の活性化×観光（地域）振興」について

- ・柑橘農家が農業体験希望者を受け入れる「農泊事業」の事例が近年増加しており、交流人口の増加に寄与している。農作業体験等を通じた観光業との更なる連携を図り、新規就農や移住定住にもつながる仕組みづくりを目指したい。
- ・エコパーク水俣の年間利用者数が50万人を超えるなど、水俣市への入込客数は年々増加している。一方で、宿泊施設の慢性的不足が課題となっており、圏域全体での宿泊施設の相互利用や連携が必要である。
- ・県南地域の食文化を活かした地域産品の開発や販路開拓、また、農業体験等の新たなコンテンツ造成の取組みを検討している。
- ・丸島港で実施している漁師市を湯の児温泉の護岸で開催し、農産物も含めたマルシェを定期的で開催できれば、観光振興にも弾みがつくと考えている。
- ・オリーブを栽培し、オリーブ茶の製造・販売を行っている。健康効果もあることから、健康と食と観光を結びつける取組みを進めていく。
- ・タチウオの漁獲量が大幅に減少しており、極めて深刻な状況である。原因として、イルカやスナメリなどの海洋哺乳類の大量出現が影響していると考えている。漁業者からも切実な声が上がっており、対策として、陸上養殖事業の展開を検討している。
- ・マガキの養殖については、今年度は順調に生育し、牡蠣小屋も盛況となっている。しかし、生産量を増やしたいが、人手不足が壁になっている。

- ・道の駅でこぼんの売上げが好調である。地場を牽引する存在になっており、観光ルートに入れ込むなど、引き続き、農林水産業と連携した観光振興を行っていく。
- ・オイスターバルは好調を維持しており、観光面でも大きな役割を果たしている。一方で、地域全体としては、担い手の高齢化や漁獲量の減少、漁協の経営体制弱体化が喫緊の課題となっている。
- ・今年度リニューアルオープンしたつなぎ温泉ホテル四季彩周辺の魅力向上の推進について、引き続き取組みを進めていく。
- ・水俣芦北地域の観光物産に関する統一的な振興ビジョンや戦略の検討、また、地域一体となったプロモーションを推進するため、雇用創造協議会や市町、観光団体等の各事業の連携やネットワークを強化する必要がある。
- ・亀萬酒造の酒米は、昨年は通常のお米よりも高く取引されている。協力できる農家を募集している状況もあり、酒米研究会の連携範囲を拡大したい。
- ・過去に整備した投石による藻場造成箇所や魚礁について、機能していないものがあるため、それらを再利用する取組みも必要である。
- ・令和2年7月豪雨災害以降、空き家が増加している。高校の実習等で空き家をリフォームし、観光客に宿泊してもらうなど、移住定住につながる取組みを推進し、居住人口や交流人口の増加に取り組んでもらいたい。

## 2 中山間地農業の課題と対策

- ・中山間地における鳥獣被害が深刻化しており、対策を講じた地域から対策不十分な地域へ被害が移動する現象も確認されている。特に県南地域では鹿による被害が多いと聞いており、その原因究明と広域的な連携が必要である。
- ・農地が狭小で高低差も大きいため、AIの活用やIT化による効率化を図っているが、町単独での大規模な集約化は困難であり、国（県）の支援が必要である。
- ・鳥獣被害の対策の一つとして、鳥獣が忌避する作物（葉ニンニク）の産地化も実証的に行っている。
- ・高齢化が進み、年々生産者が減っている。現在、タイミー等を活用しており、そういった就業支援を推進する必要がある。

**今回の会議内容を基に、次の事項について引き続き県と市町村で事務的に今後の展開等を検討していくこととなった。**

- (1) 「第一次産業の活性化×観光（地域）振興」については、各市町、各種観光団体等とのネットワークを強化するとともに、引き続き、県南地域の豊富な食文化を活かした地域産品の開発・販路開拓支援や、農業体験等、一次産業と連携した観光（地域）振興を推進していく。
- (2) 令和6年度の地域未来創造会議においても、議論された「海の再生、水産資源

の回復」及び「有害鳥獣被害の対策」については、引き続き、関係部署や関係団体と連携しながら、対策を検討していく。

(以上)